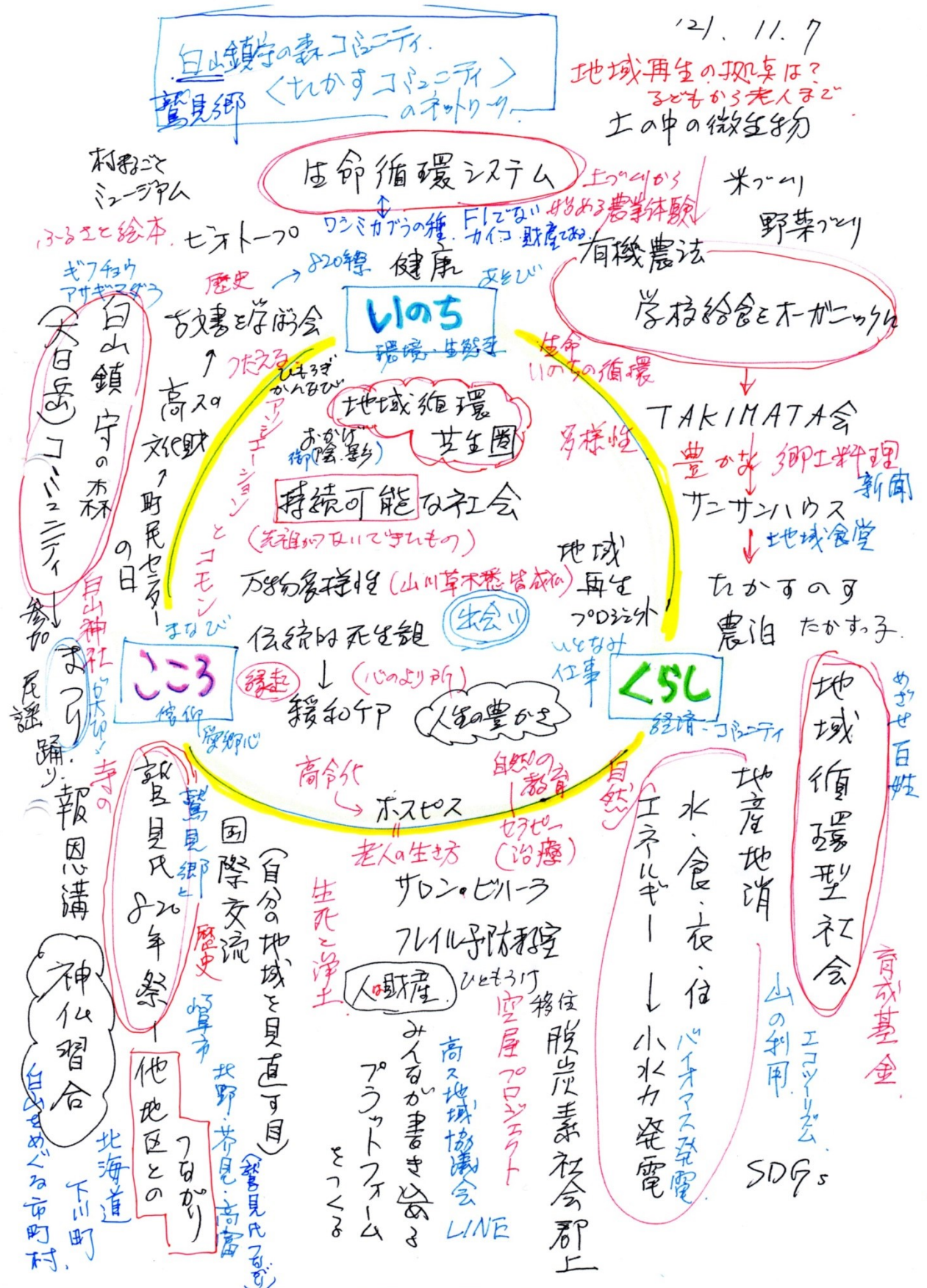


鷺見郷（白山）鎮守の森コミュニティについて

2022年4月 文責 上村文隆



1、鷺見郷のぼっとり

親父がいつも語っていた「ぼっとりの話」を紹介します。

昔は田んぼの小川に米つきの小屋があり、ぼっとりが設置されていました。

ある時、大水が出てそのぼっとりが流されてしまいました。

「あのぼっとりはどこへ行ったんやろう」

「決まっとるがの。あれは岐阜へ行ったんや」

「どうしてや」

「いっつもぎーふ、ぎーふと言っとったやろ」

高鷺には昔から「どうせ転ぶなら下（しも）へ」という言葉があります。雪が多く、山間のため耕作地も少ない。そして産業もなく働き場所が少ない。昔は出稼ぎをする人もいました。そして、高鷺から下の方に多くの人たちが行きました。

では、高鷺は人材を送り出すだけの「生産地」だったのでしょうか。実は戻ってきた人たちがいます。そして、決して貧しいだけではない、いやかえって豊かであるということに気がついてきたのです。そのことを述べてみたいと思います。

2、高鷺の課題

山間の小さな町の課題はどこも同じようです。

- (1)過疎化・高齢化 → 持続可能な町にする
- (2)産業もなく不便 → 豊かな生活とは

高鷺の昔の食べ物（おふくろの味）を思い出すと、高鷺は貧しかったのかという疑問が出てきます。高鷺の「郷土料理新聞」を作っているお母さんたちが、昔の郷土の料理を見直してくれました。何も無いところから、おふくろたちは知恵を出して様々な料理を工夫してくれたのです。古老が「おふくろは学は無かったけど知恵があった」と語ってくれました。

これは現代の私たちの食生活を見直すきっかけにもなりました。確かに現代は品数や珍しい食品があふれています。でも、それはお金を出して買うだけであり、出来合いのものです。どうやって作られたのか知ることもありません。でも、昔のおふくろたちは発酵食品を自分で作り、工夫をしていました。

報恩講のジンダ、みそづくり、干し柿、切り干し、遊び道具も竹で作る、漬物、納豆・・・などなど、枚挙に限りがありません。これは現代の冷凍食品と比べるとずっと豊かではないでしょうか。そして、それは食べ物だけではありません。

4、高鷺は貧しくなかった！

- (1)人々のつながりの豊かさ
- (2)自然の豊かさ、自給自足の中にくらしの豊かさ
- (3)祭りや報恩講、伝統文化の豊かさ
- (4)文化財・歴史の豊かさ、共有財産の豊かさ
- (5)こころといのちの豊かさ

5、鎮守の森コミュニティ

広井良典先生が「鎮守の森コミュニティ」で「いのち」と「こころ」と「くらし」をつなぐコミュニティの構想をされています。

『白山を祭る鎮守の森が持つ自然エネルギーは私たちの心と命の源であり、実は深くコミュニティを支えている。私たちはそれに気がつかなかっただけ。改めてそのねうちを見直してみよう。』

6、この構想の来歴

精神革命（前5C）

では、これまでのような経済成長が望めない今、何を拠りどころとすべきか。私は「地球倫理」と呼んでいるのですが、現代的な新たな視点で神仏儒を見直すとともに、それを地球という視点とつないでいくというビジョンです。そこで着目したのが、鎮守の森です。実は、全国のコンビニ店舗の6万弱に対して、寺社はそれぞれ約8万か所もあるんですね。2013年には、「鎮守の森コミュニティ研究所」を立ち上げ、鎮守の森を地域コミュニティの一つの拠点として、また自然エネルギーの拠点として積極的に活用しようと活動しています。

鎮守の森コミュニティ

・鎮守の森セラピー

三方良し（市民・行政・企業）

こころ + いのち + くらし

（信仰）（環境・生態系）（経済）

・伝統的死生観に立った緩和ケア

万物多様性→SDGS 鎮守の森ホスピス

郡上市地球温暖化対策実行計画協議会「第2回目」の準備

「こころ」と「いのち」と「くらし」でまとめてみる

鷺見氏研究会と「翻刻」と地域コミュニティ

「鷺見郷と鷺見氏820年祭」について

昨年から「高鷺町民センターの日」が毎週水曜日の午前中にあり、高鷺で活動をしている様々なグループの話を聞きました。いろいろなことを知り、学び、交流しているうちにわかってきたことがあります。それは「高鷺って豊かな町なんだ」ということです。

そして高鷺の歴史も学んでいるうちに、高鷺は「鷺見郷」という820年以上前からの地名であることがわかってきました。過去の歴史は私たちの前にあります。そこには豊かな文化がふれています。このことを子どもたちにも伝えていきたいと願っています。

最初の図はそういったつながりを表したものです。こうやって図にしてみると、私たちの地域が「いのち」と「こころ」と「くらし」で密接につながっていることが見えてきます。そして、これが未来の鷺見郷の在り方をも示していると感じています。